2011 年度報告書（研究員）

氏　名	白崎　護
職　位	短時間研究員

研究概要

2001 年から 2005 年の小泉政権期のデータである JESⅢ（Japanese Election StudyⅢ）を用い、対人接触とマスメディア視聴が、有権者の首相・自民党・民主党への感情温度（0～100 の数値で、値の大きなほど対象を好感する）へ与える影響を論じ、二大政党制成立期の有権者意識を解明する。パネル分析とクロスセクション分析を併用し、操作変数を用いた一般化モーメント法で変数の効果を厳密に測定した結果は以下の通りである。調査回答者との政治的会話の頻度が最も高い周囲 2 名が自民党支持の場合のパネル分析では、保守的イデオロギーの保持が回答者の自民党への感情温度を高めた。他方、会話頻度や会話相手の政治的な知識量、そして NHK ニュースの視聴は感情温度に影響しない。同じく回答者との会話頻度が最も高い周囲 2 名が自民党支持の場合のクロスセクション分析では、2001・2003・2004・2005 の各年の国政選挙につき以下の知見を得た。第一に、保守的イデオロギーの保持が回答者の自民党・首相への感情温度を高め、逆に民主党への感情温度を低めた。第二に、会話頻度は回答者の自民党・首相への感情温度を低めた。第三に、ニュース視聴は 2005 年選挙での自民党への感情温度を高めたのみで、首相自身の人気向上を導かなかった。また、ニュース視聴は民主党への感情温度に影響するが、一定の傾向を看取しない。第四に、高齢ほど自民党への感情温度が高まる傾向を認めた。第四に、会話頻度は 2005 年選挙で民主党への感情温度を高めた。回答者との会話頻度が最も高い周囲 2 名が民主党支持の場合のクロスセクション分析では、保守的イデオロギーの保持が自民党への、革新的イデオロギーの保持が民主党への感情温度を高めた。また、会話頻度と年齢は民主党への感情温度に影響するが、一定の傾向を看取しない。そして、ニュース視聴は両党・首相への感情温度に影響しなかった。総じて、創成期の民主党の内容が有権者に伝わり難かった 2003 年まではテレビが、それ以降はテレビよりも会話が同党の感情温度に影響した。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

2011 年 9 月　関西行政学研究会での報告（於　立命館大学）

“Effects of Personal Exchange and TV News on Political Affections
- An Analysis of Japanese Election Study Ⅲ Data - ”